

# 健康経営施策の新たな展開（令和3年度健康経営度調査への反映）

- 健康経営がより評価される環境を整備し、健康経営の裾野の拡大を図るため、1.情報開示の促進、2.業務パフォーマンスの評価・分析、3.スコープの拡大について、健康経営度調査に反映する。

## 1. 情報開示の促進

- 企業ごとにバラバラに開示しており、また投資家等ステークホルダー側も共通の評価基準を有していないため、積極的な情報開示を促し、他社と比較して評価できる開示項目の検討を進める。
  - 評価結果（フィードバックシート）等の開示を**ホワイト500の必須要件**とする。
  - **定量的な指標**（健診受診率、喫煙率、高ストレス者率等）の**開示状況**を問う。

## 2. 業務パフォーマンスの評価・分析

- 健康経営の実践によって従業員の業務パフォーマンスや企業経営にどのような効果があるのか、企業自らの評価・分析を促進する。
  - 企業自らによる公開が進んでおらず、これまで調査で問うていなかった、**業務パフォーマンス指標**（アブセンティーズム、プレゼンティーズム、ワークエンゲイジメント）の**測定の有無とその手法**を問う。

健康経営の実践

健康の保持・増進

業務パフォーマンスの向上

業績・企業価値の向上

## 3. スコープの拡大

- ESGの“環境”のように、健康経営のスコープを自社だけでなく「サプライチェーン」や「社会全体」に広げる動きを促進する。



- （これまでの「取引先の健康経営の実施状況等の把握・考慮」に加え、）**取引先の健康経営の取組を支援し、その旨を対外的に公表しているかどうか**を問う。
- 加えて、企業活動や商品・サービスを通じた**社会全体の「健康」への寄与**を問う。